

**Citation:** Lopez LM, Grimes DA, Schulz KF, Curtis KM. Steroidal contraceptives: effect on bone fractures in women. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2011, Issue 7. Art. No.: CD006033. DOI: 10.1002/14651858.CD006033.pub4.

**CRG名:** Cochrane Fertility Regulation Group

## [最新版\(英語版\)はこちら](#)

**英語版最終改訂年月:** 7 June 2011

**Clib issue No.;** N/U: 2011 Issue 7 ; Update

**背景:** ステロイド系避妊薬の使用は、女性の骨密度の変化と関連している。このような変化が後年に骨折のリスクを上昇させるか否かについては、明らかになっていない。骨粗鬆症は、公衆衛生上の大きな問題である。加齢に伴う骨量の低下により、骨折、特に脊椎、股関節、および手関節の骨折リスクが上昇する。骨の健康に関する懸念は、有効性の高いステロイド系避妊薬の推奨および使用に世界的な影響を及ぼす。

**目的:** 閉経前のホルモン性避妊薬の使用による女性の骨折リスクへの影響を評価すること。

**検索戦略:** MEDLINE、POPLINE、CENTRAL、EMBASE、およびLILACS、さらにClinicalTrials.govおよびICTRPにて、骨折または骨の健康およびホルモン性避妊薬に関する研究を検索した。その後追加された試験を特定するため、研究者に書面で問い合わせた。

**選択基準:** 閉経前にホルモン性避妊薬を使用している女性における骨折、骨密度(BMD)、または骨代謝を調査したランダム化比較試験(RCT)を検討した。ホルモン性避妊薬とプラセボもしくはその他のホルモン性避妊薬との比較、またはサプリメントとプラセボを比較する介入も選択可能とした。

**データ収集と分析:** 文献検索により同定されたすべての標題および抄録を評価した。平均差は逆分散法を用いて算出した。2値アウトカムについては、マンテル・ヘンツェルオッズ比(OR)を算出した。どちらも95%信頼区間を示し、固定効果モデルを使用した。介入が異なっていたため、試験を統合しメタアナリシスを実施することはできなかった。

**主な結果:** 特定した16件のRCTのうち、2件ではプラセボが使用され、1件では比較として非ホルモン療法が使用されていた。また、13件で2種類のホルモン性避妊薬が比較されていた。骨折をアウトカムと設定していた試験はなかった。ほとんどの試験でBMDが測定され、いくつかの試験では骨代謝が評価されていた。メドロキシプロゲステロン酢酸エステルデポ剤(DMPA)は、骨密度の低下と関連していた。プラセボ比較試験では、DMPAとエストロゲン補充の併用によりBMDが増加し、DMPAとプラセボの併用では低下した。避妊薬の併用では、骨の健康にマイナスの影響はないと考えられたが、いずれもプラセボとの比較は行われていなかった。埋め込み型薬剤については、1本式エトノゲストレル群は、2本式レボノルゲストレル群と比較してBMDの低下が大きいことが示された。しかしながら、結果は埋め込み型薬剤の比較のすべてで一貫しているわけではなかった。

**レビューアの結論:** ステロイド系避妊薬が骨折のリスクに影響を与えるか否かについては、既存の情報からは判断不能である。多くの試験は参加者が少数で、一部の試験ではフォローアップ不能者が多数であった。医療従事者および女性は、有効性の高いこれらの避妊薬のコストと利益を検討すべきである。例えば、注射型避妊薬および埋め込み型薬剤は、有効性が高く、長期的な産児制限が可能でありながら、日々の投与は不要である。プロゲステンのみを含む避妊薬は、医学的狀態によりエストロゲンを避ける必要がある女性には適切と考えられる。

(監訳 内藤 徹)

翻訳公開日: 2011年11月1日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がありましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年12回改訂版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。